

松江大橋と故深田工學士

京都帝國大學土木教室 近藤泰夫

故工學士深田清君が(昭和6年京大卒業)松江市松江大橋あの歌に名高い松江大橋の改築工事監督中、昭和11年9月12日、その第1橋脚の基礎に於て、コンクリートバケツの落下し来れるに衝り、殉職せられたることは、其の當時の新聞記事に詳細に報道せられた所であつて、未だ讀者の記憶に新しいところと思ふ。

土木技術者の工事現場に於ける殉職と云ふことは、軍人の戦場に於ける戦死と等しく、誠に青史に留むべきであると信じ、各方面の同情を得て、記念事業を計畫して、記念出版をなし、又松江大橋々畔に記念碑を建立することゝしたのであつた。

昭和14年10月15日故深田技師建碑竣工して除幕式が舉行せられた旨、島根縣土木課長猿

谷新太郎氏より來信があつたので、茲に碑の寫眞を掲げて、記念事業に醸金を辱くしたる各位に紙上を借りて通知申上げる次第である。

尚建碑のことは大橋に最も縁故深き松江市白瀧本町全町の計畫に係り、設計は内藤伸氏に、碑文は松江市學務課に委嘱したものである。

寫眞手前に建つ記念碑の主、源助は今より300年前、松江大橋の人柱に立ちたる普請奉行配下足輕糾頭雜賀源助であり、哀話として今に言傳へらるゝ所である。源助が人柱に立ちたりと傳ふる地點と、深田工學士が殉職したる第1橋脚とが全く同一地點であると云ふのも、不思議な因縁である。

松江大橋々畔深田技師の碑

